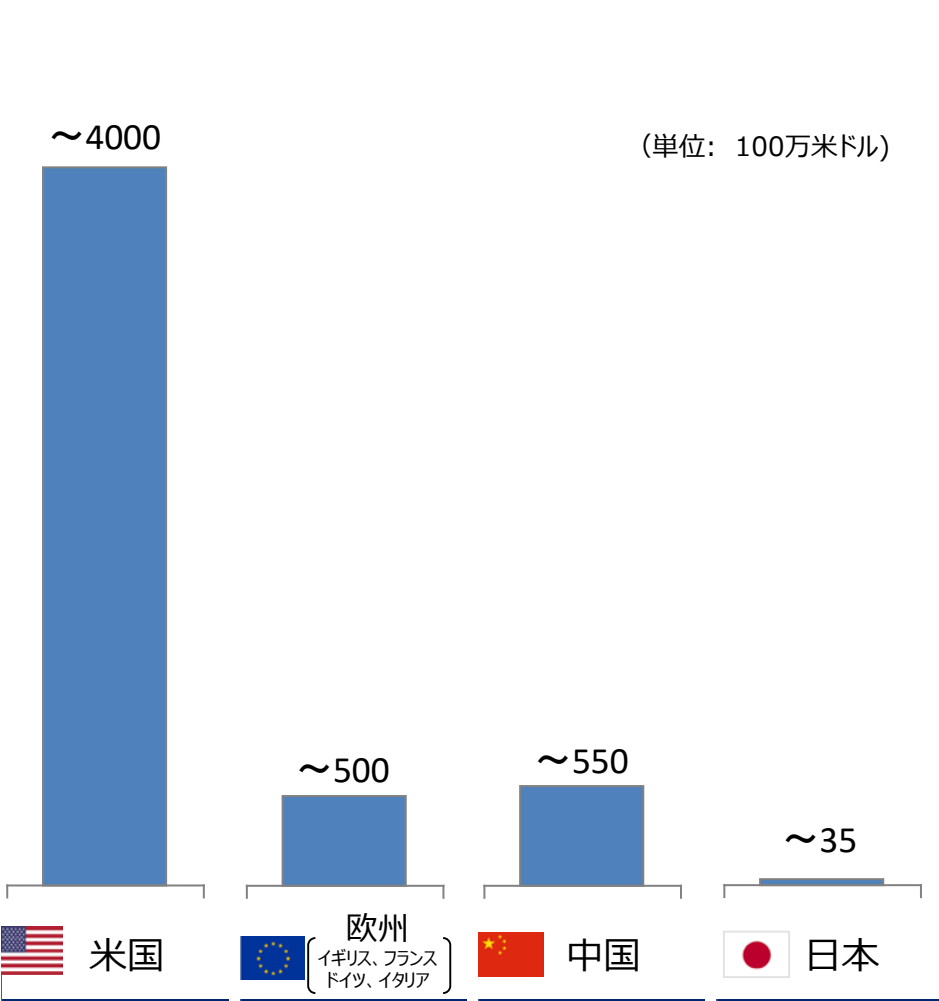


米国・欧州・中国におけるヘルスケアIT投資の現状

- ヘルスケアITベンチャーへの投資額は、米国は日本の100倍,欧州・中国は日本の15倍規模。
- 各地域における医療の課題やニーズ解決に向けたサービスを中心に進展。

ヘルスケアIT関連ベンチャーへの投資額の比較(2017年)



ヘルスケアIT関連ベンチャー： ソフトウェア・ハードウェアの両方を含む、情報技術を扱うヘルスケア企業
(出所) エキスパートインタビュー

米国・欧州・中国のヘルスケアIT投資の特徴

米国	➢ <u>医療費適正化と疾病予防への大きなニーズ</u>を背景に、医療機関・保険者への経営サポートサービスが存在。 - OPTUM (医療機関・保険者への総合サービス) ➢ 近年は、特定の<u>生活習慣病(糖尿病等)の予防・治療管理をアプリで実施</u>するビジネスモデルや、企業が幅広くビッグデータを収集し、解析するビジネスモデルが出現。 - Omada (2型糖尿病予防支援アプリ) - WellDoc (2型糖尿病治療管理アプリ) - IBM Watson (人工知能によるビッグデータ解析)
欧州	➢ <u>待ち時間の緩和など医療アクセスの改善ニーズが高く</u>、遠隔医療や健康管理サービスへの投資が進展。 - ada (AIによる健康相談) ➢ 特定疾患では、メンタルヘルスや女性・小児関連疾病向けなど、サービスの細分化が進んでいる。 - SilverCloud (メンタルヘルス治療管理) ➢ EU内では、<u>同種のサービスが言語圏ごとに併存</u>。 - 言語圏 (英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語等) ごとに医療関係者のコミュニケーションツールが存在。 ➢ 事業の立ち上げは<u>公的研究機関の研究プロジェクトを事業化したケース</u>も多く存在し、各国政府 (一部EU委員会) も積極的に初期投資を支援。
中国	➢ 医療インフラ不足に伴う医療へのアクセス向上ニーズにより、<u>医薬品のeコマース、遠隔医療</u>を中心に投資が進展。 - We Doctor (オンライン診療) - 天猫医薬 (アリババのT-mall内でのOTC薬販売) ➢ 今後、大規模なユーザーベースのデータを比較的容易に収集可能な環境を背景に、<u>ビッグデータ分析プラットフォームの台頭</u>が進む可能性がある。 - iCarbonX (DNA等の個人データのAI解析)